

手稲緑地通信

第9号 平成23年12月発行

発行：手稲区土木部
維持管理課公園緑化係

手稲区内の3つの公園で、貴重な自生植物を守り育てる取り組みをしています。

札幌市手稲区には、住宅地の中の身近な場所に、緑あふれる公園や緑地があります。中でも、富丘西公園、星置緑地、稲穂ひだまり公園には、市内で貴重になった自生植物の群生を見ることができます。

手稲区土木部では、地域の皆さんにご協力いただき、これらの公園とその自生植物の魅力を知っていただき、さらに、未来へ向けて守り育てていく取り組みをすすめています。それぞれの公園でこれまでに行った取り組みについてご紹介いたします。

スズランの群生地がある富丘西公園 手稲区富丘4・5条5丁目



富丘西公園には、札幌市のシンボルフラワーである日本スズランが市内では唯一生育しています。スズラン保全区域では様々な野草も見ることができ、園内にはオオウバユリの群生地など、多様な自然とふれあうことができます。

■スズラン

日本スズランはドイツスズランと比べ香りが淡く、花が葉の影にひっそりと咲きます。



写真：第23回自然観察会、2011.6.5

ミズバショウの群生地がある星置緑地 手稲区星置1条5丁目



星置緑地は市街地には珍しい湿性林で、春一番にはミズバショウの大群落が白い花を咲かせることから、たくさんの方が訪れます。春から秋まで、様々な動植物を木道から観察することができます。

■ミズバショウ

サトイモ科の植物で、北国に春の到来を告げる代表的な植物の一つです。



写真：第16回自然観察会、2011.4.24

カタクリの群生地がある稲穂ひだまり公園 手稲区稲穂4条1丁目



稲穂ひだまり公園には、丘陵地の樹林の中にカタクリが群生しています。カタクリだけでなく、様々なエンレイソウなど珍しい植物に出会える場所として、地域の方に親しまれるようになってきています。

■カタクリ

春早くに咲く球根植物で、ハチやアブ、チョウなどに貴重な蜜を提供します。



写真：第7回自然観察会、2011.4.29

富丘西公園、星置緑地、稲穂ひだまり公園では、北大大学院農学研究院教授の近藤哲也先生と、植物の専門家である笠 康三郎さん((有)緑花計画)のご指導と、地域の皆さんのご協力をいただき、植物保全の取り組みを進めています。

富丘西公園の取り組み

富丘西公園のスズラン保全活動は、今年で8年目を迎えました。また、富丘丸山町内会の作業リーダーを中心に、行っている作業講習会では、季節ごとに、植物の状況に合わせた保全作業を行っています。こうした地域の皆様のご協力による保全作業により、年々スズランを圧迫していた植物が衰退し、スズランが元気を取り戻してきています。

スズランを守り育てる保全作業を続けています

春から秋にかけて、専門家の指導と地域の皆さんの協力による保全作業を継続的に行っています。

春の作業

カモガヤの抜き取り除去
繁殖力の強い牧草のカモガヤが増え、スズランを圧迫する恐れがでてきたため、2年前からスズランが芽を伸ばす前に作業を行っています。



■カモガヤは刈り取りによる衰退は期待できないため、地際から軽く削り取るように掘り起こします。

夏～秋の作業

ススキの刈り取り、帰化植物の抜き取り、クズの除去、など
8年前からこれらの作業を根気よく行っています。スズランを圧迫していたススキは背が低くなってきましたが、植生が年々変化するため、抜き取りが必要な植物の種類が変化してきています。また、公園西側に生育するオオウバユリを保全するためのオオイタドリも2年前から行っています。



■保全区域内ではオオアワダチソウなど抜き取りが必要な植物だけを、他の植物と見分けながら慎重に抜き取ります。



■植物の生育が旺盛な夏は、ススキや木道に覆い被さる植物も刈り取ります。暑さの中での作業は大変です。

晩秋の作業

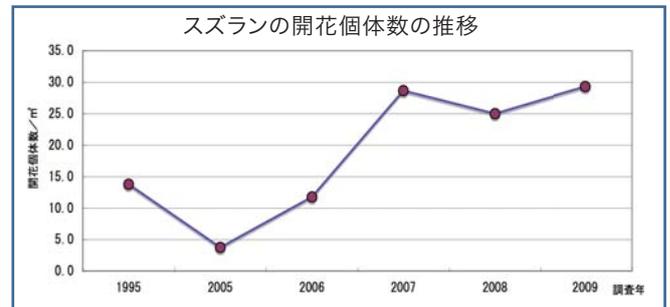
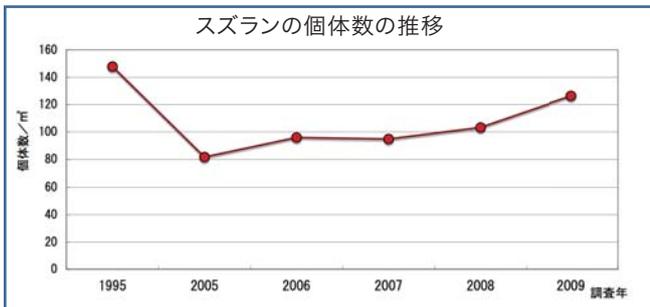
保全区域の大掃除
ススキなどの枯れ草が厚く堆積すると、スズランなどの生育に悪影響が出てくるため、保全区域内の枯れ草の刈り取りと搬出を毎年行っています。



■広い保全区域が大勢の皆さんの協力でもとてもきれいになります。(黄色ジャンパーは富丘丸山町内会作業リーダー)

スズランが元気になってきています

スズラン保全のご指導と調査を続けている、北大農学研究院の近藤教授の2010年の調査報告によると、スズランは、15年前に再確認された際の生育密度には及ばないものの、開花数については約3倍に増えています。また、通常スズランは地下茎で繁殖しますが、園内から採取したタネから苗を育て、スズランが消えた場所に移植する試みも行っています。



公園の植物と親しむために

■自然観察会を行っています。

スズラン開花の時期には、緑の達人の案内で園内を散策する観察会を開催しています。また、秋の大掃除会では、皆で焼き芋を食べながら1年の作業をふりかえる「お疲れさま会」も行っています。

■富丘西公園で出会える植物を季節ごとに紹介する「富丘西公園の植物暦」を配布しています。

園内に生育する主な植物92種を開花時期の順に整理して紹介する小冊子で、自然観察会で配布している他、手稲区土木センター、手稲区役所でもお渡ししています。



星置緑地の取り組み

7年にわたり、ミズバショウをはじめとする多様な植生を守り育てながら、より魅力ある緑地にするための取り組みを進めています。5年前には「星置緑地みどりのサポーター」も誕生し、専門家の指導のもと、きめ細やかな保全作業を行っています。これまで刈り取りを続けてきたアシやササについては勢力が弱まっており、道路からの緑地の見通しも良くなってきています。

緑地の植物を守り育てる保全作業を続けています

「星置緑地みどりのサポーター」の皆さんに協力いただき、季節ごとの保全作業を継続的に行っています。

春の作業

緑地周辺の清掃

緑地を訪れる人に気持ちよく過ごしてもらうため、雪解け後ミズバショウが咲く前に、木道や緑地周辺のゴミ拾いなどの清掃を行っています。



■ゴミ拾い終了後の「みどりのサポーター」。現在40名の皆さんがサポーターに登録しています。

夏～秋の作業

アシの刈り取り、帰化植物の抜き取り、など

緑地の見通しを良くするため、7年前から東側入口付近のアシの刈り取りを続けています。また、木道周辺の草刈りや帰化植物の抜き取りやオオイトダリの刈り取りなどを行っています。抜き取りが必要な植物と抜いてはいけない植物を見分けるのは大変ですが、サポーターの皆さんは根気よく丁寧に作業を続けています。



■湿地内に増えてきたクサヨシも抜き取っています。他の植物を傷めないように慎重に作業を行います。



■東側の歩道脇の部分は、貴重な植物が見えやすくなるように、帰化植物などを丁寧に刈り取っています。

晩秋の作業

ササ刈りと大掃除

ミズバショウを傷めない時期にササを刈り取っています。毎年勢力が弱まるのを確認しながら、少しずつ刈り取る範囲を広げています。



■今年は新設した南側入口付近のササも刈り取りました。見通しが良くなることでゴミのポイ捨てが減ることも期待しています。

多様な植生を楽しめる緑地になってきています

これまで、保全作業を行ってきているサポーターの皆さんと、意見交換会を開いてきました。最初の意見交換会では、「ミズバショウ以外の魅力が薄い」「うっそうとしていて防犯上とても心配」「植物を見たくても、怖くて一人では入れない」といったご意見が出されていました。その後、専門家の指導のもとで作業と意見交換を繰り返しながら問題点が改善され、貴重な植物に親しめる緑地に変化してきています。

改善された点

- 東側入口付近のアシの刈り取りを続けることで、道路からの見通しが改善されました。また、これまでアシに隠れていた貴重な植物も見えやすくなっています。
- 木道周辺の草刈りなどを行うことで、歩きやすく、植物も観察しやすくなっています。
- ササを刈り取ることで、植物に日が当たる環境が作られています。また、帰化植物の抜き取りなどの手入れを継続することで、植物の見所が増えてきています。



木道が見通せるようになった東側入口

緑地の植物と親しむために

■自然観察会を行っています。

ミズバショウ開花の時期にあわせて観察会を開催しています。緑の達人の案内で園内を散策し、色とりどりの春の野草の鑑賞を楽しんでいただいています。

■緑地内の木道がリニューアルしました。

緑地内を回遊できるよう、線路側に新しい木道のルートが設けられ、たくさんの植物を身近に観察できるようになりました。また、拡幅によって車椅子でも安心して利用できるようになったほか、ベンチも新たに設置されています。



観察デッキにはベンチや手すりも新設

稲穂ひだまり公園の取り組み

4年前より自然観察会を開催してきたことで、カタクリが咲く公園として地域の皆さんに親しまれるようになってきました。また、ササ刈りなどの作業を7年間続けてきたことによってササは衰退し、全体にカタクリの花数も増えてきています。

カタクリを守り育てる保全作業を続けています

地域の皆さんに協力いただいて、保全作業を行っています。

晩秋の作業

ササ刈りとリター除去

カタクリを保全するには、春の生育期に良く日の当たる環境を作ること、タネから新しい個体を増やしていくことが大切です。そのため、秋のうちに日陰を作るササを刈り、種子の定着や幼体の生育を妨げるリター（落葉や枝や樹皮などの植物の未分解物）をよけて、カタクリが春を迎える準備をしておきます。



■ 落ち葉や枯れ枝をかき集めて運び出します。



■ ササは毎年刈取することで勢力が弱まってきています。

カタクリが元気になってきています

保全作業を続けることで日当たりが良い環境が作られ、カタクリを始めとするたくさんの植物が元気に芽生えている様子が観察できています。また、観察会や作業に参加して、カタクリを見守る方も増えています。

参加者の声 (2011.10.30)

- ・毎回ササ刈りに参加しているが、散歩するたびに、きれいになってきたことを実感している。
- ・春になると、毎年増えていくカタクリを見に来るのが楽しみ。
- ・初めて参加したが、数年前までササで覆われていたのに、今回ほとんどなくなっているのを見て驚いた。



■ 保全作業を始める前は、カタクリがササと枯れ葉に覆われていました。(2004年)



■ 見通しが良くなり、カタクリやエゾエンゴサクなどがびっしり開花するようになりました。(2011年)

手稲の公園や緑に関わる活動はほかにもたくさんあります!

手稲は山や平地の緑、川もたくさんあり、自然にとっても恵まれた場所です。「手稲緑地通信」では、これまでに区民の皆さんによる取り組みも多数紹介してきました。自然に親しむイベントも様々な場所で開催されていますので、足を運んでみてはいかがでしょうか。

「前田森林公園凸凹クラブ」 公園の木の実や間伐材を利用して自由に工作できる「トンカチ広場」や、自然観察会を開催するなど、前田森林公園と親しむ様々な取り組みを行っています。(通信1号掲載)

「星置川を育てる会」 星置川を守り育てるため、毎年春に会のメンバーによる星置川の清掃活動と、定期的な川の観察を続けています。(通信1号掲載)

「手稲さと川探検隊」 中の川や星置川での生き物調べや手稲山麓の森での活動を中心に、川や森に関連する勉強会も開催するなど、1年を通じて様々な取り組みを行っています。(通信2号掲載)

「手稲アウトドアクラブ」 主に稲穂地区と金山地区の小学生4~6年生の会員を対象に、1ヵ月に一度、手稲山周辺の自然観察を中心とした季節ごとの野外活動を行っています。(通信3号掲載)

「星観緑地」の「タチアオイの会」 緑地の花広場のタチアオイのタネを採取し、ボランティアの皆さんが自宅で育てた苗を植える取り組みをしています。また、自然観察会など、1年を通じて星観緑地と親しむイベントも開催されています。(通信5号掲載)

「山口運河」を地域ぐるみで守り育てるための清掃活動 星置連合町内会主催の運河の清掃では、運河を覆い尽くすアシなどの草刈りを毎年行っています。また、周辺の中学校や高校の生徒による清掃活動や生き物調査も行われています。(通信7号掲載)



「手稲緑地通信」では平成19年より手稲区内の公園で貴重な植物を守り育てる取り組みを紹介してきました。今後も観察会や保全作業の案内は、それぞれの公園の案内板などで紹介していく予定です。

連絡先:手稲区土木センター公園緑化係(電話:011-681-4011)